

「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

この秋、軍拡反対・改憲阻止の声で、戦争国家への道を止めよう



テッポウユリ

戦争に直結する軍拡財源法や軍事産業支援法が、6月21日に閉会した211通常国会で成立しました。この間、同時進行で憲法審査会の改憲の動きが加速しています。

憲法審査会の改憲派は多数でも国民世論とは乖離

憲法審査会は、衆議院50人、参議院45人として各議院の会派別の人数で構成されます。衆議院の場合、自民28・公明4・維新4・国民1・有志1・立民11・共産1です。「有志」は維新・国民とともに

改憲で同調しています。憲法審査会を改憲・護憲で分けると、改憲38、護憲12。改憲派が護憲の3倍以上を占めています。

一方、今年5月の世論調査では、岸田文雄首相在任中の改憲賛成は35%、反対は47%でした。改憲派は、国民に定着している「憲法9条」とともにある「平和」の世論を「改憲」に傾かせようと、ロシアによるウクライナ侵略や台湾海峡の危機を煽り、9条改憲の世論作りをことあるごとに繰り返しています。

緊急事態条項に衆院議員任期延長を持ち込む

その突破口となるのが緊急事態条項です。6月の憲法審査会では、緊急事態における「議員任期の延長」が議題となり、各党が意見を述べました。これは、自民・公明・維新・国

民などが、大災害時などの緊急時に「国会機能維持のために議員任期の延長が必要」と要請。それを受けて行われたものです。

「ストップをかけられなかった」過去の過ちを繰り返すのか

議員任期の延長が行われたのは日中戦争下の1941年でした。衆議院の任期を1年延長し、その間に東南アジアへの戦線拡大と真珠湾攻撃に踏み切りました。選挙を行わない事で「国民の意志は全く反映されず、戦争に巻き込まれていった」時代でした。

現在の憲法では、憲法54条で「衆院議員が不在の場合、臨時の暫定的措置として参議院の緊急集会で対応し、その後国民から選ばれた衆議院がその可否を判断する」仕組みを定めています。いかなるときも権力の乱用を

起こさないための民主的な仕組みです。同時に災害対応の法律も整えられています。

自民党改憲案・緊急事態条項の矛盾

現在、自民党が提案している緊急事態条項では、緊急事態が発生した場合は、「予算を含む全ての権限を内閣総理大臣に集中する」としています。全ての権限を内閣総理大臣に集中して国会の機能を奪いながら、同時に「国会機能維持のための議員任期の延長」を求めるとは、筋が通じません。「議員任期の延長」なら、受け入れやすいとみたのでしゅうか。

維新は改憲の急先鋒 自民を右から煽る

維新の馬場代表は、5月3日の憲法記念日のテレビ討論会で自民党に対して、「岸田総理が憲法改正実現本部

で、来年の9月の任期までに憲法改正をやると言っている。国民投票をするためには7月末までに発議をしなければならぬ。ぜひ憲法改正項目をまとめるよう主導していただきたい」と述べました。

「九条の会」憲法改悪阻止の総決起を呼び掛ける

「九条の会」は8月3日声明文を発表し、「岸田政権の軍拡に反対し、憲法改悪を阻止する市民の総決起の秋を創ろう」と呼びかけています。

次の総選挙は「改憲して日本が戦争国家に変わる」ことにイエス・ノーが問われる選挙です。日本国憲法9条のもと、私たちは「二度と戦争はしない」ことを改めて示しましょう。



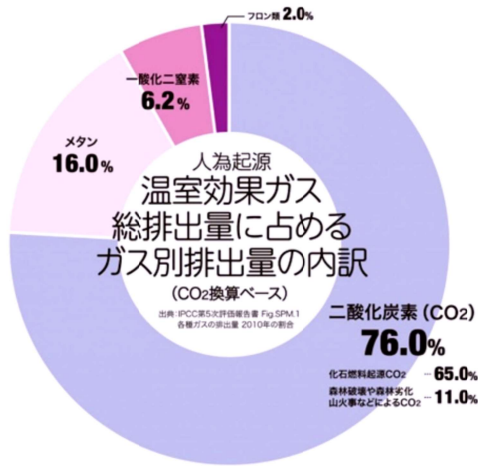
異常気象と地球温暖化はなぜ起こる？

ここ数年、目に見えて異常気象が増えています。これらの原因はほぼ間違いなく、地球温暖化によるものと考えられています。そこで、今回から数回に渡って地球温暖化について考えていきたいと思います。

地球温暖化の現状

現在の地球温暖化は、人為的要素が強いと判断されています。その原因となっているガスには様々なものがありますが、二酸化炭素はもっとも温暖化への影響度が大きいガスと考えられています。

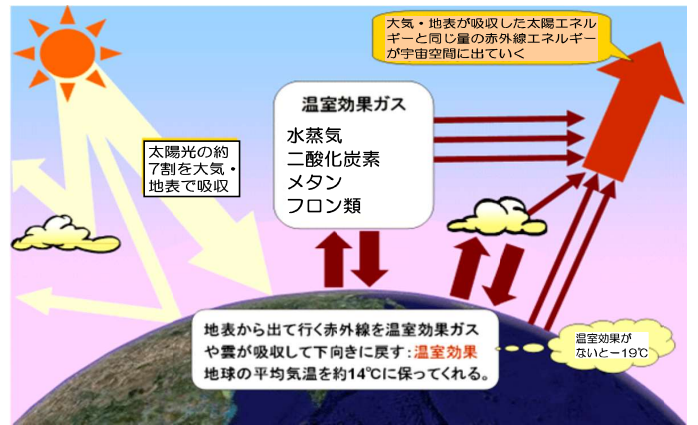
産業革命以降、化石燃料の使用が増え、その結果、大気中の二酸化炭素の濃度も増加しています。



地球温暖化のメカニズム

現在、地球の平均気温は14℃前後ですが、もし大気中に水蒸気、二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガスがなければ、マイナス19℃位になると言われています。太陽から地球に降り注ぐ光は、地球の大気を素通りして地面を暖め、その地表から放射される熱を温室効果ガスが吸収し大気を暖めているからです。

近年、産業活動が活発になり、二酸化炭素、メタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇し始めています。これが地球温暖化の原因と考えられています。

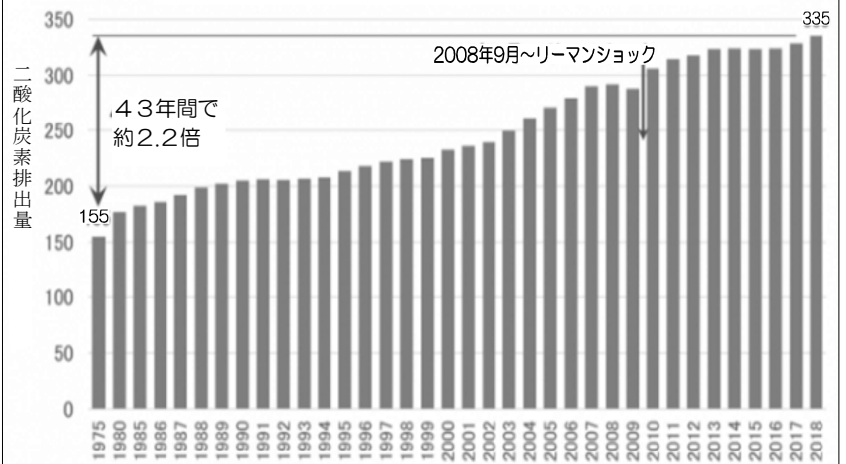


増え続ける温室効果ガス

IPCC第4次評価報告書によれば、温室効果ガス別の地球温暖化への寄与は、二酸化炭素76.7%、メタン14.3%、一酸化二窒素7.9%、オゾン層破壊物質でもあるフロン類(CFCs、HCFCs)1.1%、となっています。つまり、石油や石炭など化石燃料の燃焼などによって排出される二酸化炭素が最大の温暖化の原因と言えます。

この二酸化炭素濃度は、産業革命前1750年の280ppmから2013年には400ppmを超え、実に40%以上も増加しており、IPCCでは、大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は、過去80万年間で前例のない水準まで増加していると報告しています。

世界のCO2排出量の推移 1975~2018年



横濱港の真ん中に「横濱ノースドック」という米軍基地があります。これまでは米軍の軍用資材の備蓄・保管場所でした。ところが今年1月の日米外務・防衛閣僚会合で、この基地に「揚陸艇部隊」という約280人からなる実戦的な米軍部隊の配備が突然発表されました。戦地などに人員や物資を輸送する台湾有事などをにらんでの任務です。敵国から見れば兵站基地、横濱港は攻撃的のです。

これをストップさせようと、「ノースドック」への揚陸艇部隊配備反対の県民署名が始まりました。

まもなく78回目の8月15日を迎えます。

横濱大空襲の直前に、命からがら厚木に疎開した祖母が「戦争はもういやだ」と何度も言っていたことがよみがえります。

(幸)

横濱ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備